

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
<p><共通></p> <p>D. (他者を尊重する公平な姿勢) 先行研究と自らの仮説を批判的に討論し、自らの意見をより客観的視点から組み立て、他者の意見を尊重する、市民性のある公平な姿勢で論文を作成することができる。</p> <p>O-2-1. (知識・理解の深化と統合) 本コース5つのそれぞれの専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法を獲得し、知識を有機的に統合し、論文を作成することができる。</p> <p>O-2-2. (独創性) 新たな視点から問題提起を行い、それを解決するための方法を提示しながら、論文を作成することができる。</p> <p>B-3. (人間科学コース固有の課題) 「人間」「社会」に対する自覚的かつ反省的な関わりを通じて、人間存在への理解を深め、学生自ら設定したテーマで論文を作成できる。</p>								卒業論文
<p><言語学・応用言語学></p> <p>O-1-1. (文献分析力) 本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。</p> <p>O-1-2. (研究方法) 本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、統計的データ分析などの研究方法を正しく身に付けて実践し、必要な史資料や文献を収集することができる。</p> <p>O-1-3. (表現力) 学問的議論の場において、他者の意見を理解するとともに、自分自身の意見を明確に表現し、建設的なコミュニケーションを取ることができる。</p> <p>B-2. (専門分野の知識と理解) 本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身に付け、それらを説明できる。</p> <p>O-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。</p>				言語学・応用言語学演習II・III・VII・VIII(音声や文法などの構造的側面)、言語学・応用言語学演習IV・IX(語方言・諸言語の間に見られる言語の種類(タイプ)に関する理論)、言語学・応用言語学演習V・X(脳科学などとも関連する心理言語学の実験)、言語学・応用言語学演習VI・XI～XX(言語の歴史的側面・系統的側面・社会的側面)		言語学・応用言語学実習 I～II (卒業論文作成に関わる実践的科目)		
<p><地理学></p> <p>O-1-1. (文献分析力) 本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。</p> <p>O-1-2. (研究方法) 本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、統計的データ分析などの研究方法を正しく身に付けて実践し、必要な史資料や文献を収集することができる。</p> <p>O-1-3. (表現力) 学問的議論の場において、他者の意見を理解するとともに、自分自身の意見を明確に表現し、建設的なコミュニケーションを取ることができる。</p> <p>B-2. (専門分野の知識と理解) 本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身に付け、それらを説明できる。</p> <p>O-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。</p>				地理学実習II(自然地理学的調査や作図法の基礎)、地理学実習I(卒業論文作成に必要な地域調査能力を高める授業)		地理学演習XIII(卒業論文作成に実際に取り組む授業)		
<p><心理学></p> <p>O-1-1. (文献分析力) 本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。</p> <p>O-1-2. (研究方法) 本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、統計的データ分析などの研究方法を正しく身に付けて実践し、必要な史資料や文献を収集することができる。</p> <p>O-1-3. (表現力) 学問的議論の場において、他者の意見を理解するとともに、自分自身の意見を明確に表現し、建設的なコミュニケーションを取ることができる。</p> <p>B-2. (専門分野の知識と理解) 本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身に付け、それらを説明できる。</p> <p>O-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。</p>				心理学実習I～II(心理学的研究のテーマ・仮説を見つけ、文献を検証しながら、学生自身で心理学研究を実施できる能力を培う授業)、心理学演習I～III		心理学講義I～IV(知覚・認知心理学)、心理学講義V～VI(神経・生理心理学)、心理学講義VII～VIII(司法・犯罪心理学)、その他心理学専門分野の授業科目)		
<p><比較宗教学></p> <p>O-1-1. (文献分析力) 本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。</p> <p>O-1-2. (研究方法) 本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、統計的データ分析などの研究方法を正しく身に付けて実践し、必要な史資料や文献を収集することができる。</p> <p>O-1-3. (表現力) 学問的議論の場において、他者の意見を理解するとともに、自分自身の意見を明確に表現し、建設的なコミュニケーションを取ることができる。</p> <p>B-2. (専門分野の知識と理解) 本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身に付け、それらを説明できる。</p> <p>O-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。</p>				比較宗教学演習I～VII(比較宗教学に關し、文献の読解方法や研究テーマの設定の仕方、フィールド調査やデータ分析の方法を段階的に身につける授業)、文化人類学演習I～VII(文化人類学に關し、文献の読解方法や研究テーマの設定の仕方、フィールド調査やデータ分析の方法を段階的に身につける授業)		比較宗教学講義I～VII、宗教史講義I～IV、文化人類学講義I～VII、社会人類学講義I～IV		
<p><社会学・地域福祉社会学></p> <p>O-1-1. (文献分析力) 本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。</p> <p>O-1-2. (研究方法) 本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、統計的データ分析などの研究方法を正しく身に付けて実践し、必要な史資料や文献を収集することができる。</p> <p>O-1-3. (表現力) 学問的議論の場において、他者の意見を理解するとともに、自分自身の意見を明確に表現し、建設的なコミュニケーションを取ることができる。</p> <p>B-2. (専門分野の知識と理解) 本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身に付け、それらを説明できる。</p> <p>O-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。</p>				社会学演習I～VII(社会学の調査技法・実査を伴う授業)、地域福祉社会学演習I～VII(地域福祉社会学の調査技法・実査を伴う授業)		社会学講義I～VII(社会学理論の基礎)、社会学講義VIII～XII(数理社会学・家族社会学)、地域福祉社会学講義I～VII(地域福祉社会学理論の基礎)、地域福祉社会学講義VIII～XII(福祉社会学・地域社会学)		
<p><人間科学コース共通></p> <p>B-3. (人間科学コース固有の課題) 「人間」「社会」に対する自覚的かつ反省的な関わりを通じて、人間存在への理解を深め、学生自ら設定したテーマで論文を作成できる。</p>						言語学概論、地理学概論、心理学概論、比較宗教学概論 I～II、社会学概論、人間科学統計入門		
<p><国際コース共通></p> <p>B-4. (国際コース固有の課題) 英語により日本の人文学を学び、外国語による思考力を鍛え、日本社会や国際社会の諸問題を表現することができる。</p>						国際コースの学生はInternational Humanities I～X(英語による日本学の授業)各2単位を8単位修得する。この8単位のうち4単位までは人文学課題探求演習I～IIIに代えて修得することができる。また、国際コースの学生は専門80単位のうち40単位以上をF科目(外国語により実施される科目)またはF/J科目(授業の一部で外国語を用いて実施される科目)で修得する(F科目、F/J科目であるかどうかは各授業のシラバスに表示される)。卒業論文(10単位)は外国語で作成された場合、F科目とする。また、外国語文献資料や外国語による研究成果を幅広く参照して作成された卒業論文の単位は、所定の申請書を提出した上でF/J科目に認定されることがある。		
<p><共通></p> <p>B-2. (専門分野の知識と理解) 本コース5つのそれぞれの専門分野の基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身に付け、それらを説明できる。</p> <p>B-1. (人文学の広範な知識と理解) 人文学全般の多様な専門分野の基礎知識を身に付け、人文学固有の思考や方法を説明できる。</p> <p>O-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。</p>						博物館に関する科目、図書館に関する科目、地域福祉の比較社会学、コミュニティの構造、情報機器操作入門、西洋古典学講義I～IV、ジャーナリズム論I～II、現代史入門I～II		
		人文学基礎I	人文学基礎II	人文学I～IV				
						International Humanities I～II: Introduction to Japanese History, III～IV: Introduction to Japanese Literature and Language, V～VI: Introduction to Japanese Art and Visual Culture, VII～VIII: Introduction to Japanese Religions and Philosophy, IX～X: Analyzing International Scholarship on Japan		
						<古典語>ギリシャ語I～II、ラテン語I～II、サンスクリットI～II、漢文I～II <外国語>英語I～IV、ドイツ語初歩I～II、フランス語初歩I～II、中国語初歩I～II、朝鮮語I～IV、アラビア語I～II		
						言語文化科目(Intensive English、学術英語、専門英語、初修外国語) 国際コースの学生は言語文化科目は17単位が必修(国際コース以外の学生は12単位)。17単位のうち第一外国語(英語)は12単位、第二外国語は5単位が必修。		
						文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、総合科目		
						サイバーセキュリティ基礎論		高年次基幹教育科目
						課題協学科目、基幹教育セミナー、健康スポーツ科		
						A-2. (協働) 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。		